



Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール

- [インストールのシステム要件](#) (1 ページ)
- [ブラウザ要件](#) (2 ページ)
- [IP アドレス要件](#) (3 ページ)
- [仮想化ソフトウェアのライセンス タイプ](#) (3 ページ)
- [インストールに関する FAQ 情報](#) (4 ページ)
- [インストール前の作業](#) (6 ページ)
- [インストールの開始](#) (16 ページ)
- [Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール](#) (17 ページ)
- [インストール後のタスク](#) (21 ページ)

インストールのシステム要件

Cisco Prime Collaboration Deployment のインストールで使用する必要がある Open Visualization Format (OVA) で定義されているように、サーバの要件は次のようになります。

表 1: Cisco Prime Collaboration Deployment インストール サーバの要件

要件	注記
製品	Cisco Prime Collaboration Deployment
バージョン	14
CPU	vCPU X 2
メモリ	4 GB
Hard Drive	80 GB (1)
ライセンス	Cisco Prime Collaboration Deployment にはライセンスは必要ありません。

要件	注記
ポート	22 移行を実行する Cisco Prime Collaboration 展開の Cisco Unified Communications Manager と Cisco Prime Collaboration の展開の間にはポート22が必要です。

ブラウザ要件

Cisco Prime Collaboration Deployment は、システムの設定および管理に使用できる GUI インターフェイスを提供します。このインターフェイスにアクセスするために使用できるブラウザとオペレーティング システムを次に示します。



(注) それ以外のブラウザはサポートされません。

Cisco Prime Collaboration の導入では、次のオペレーティングシステムブラウザがサポートされています。

- Mozilla Firefox 42
- Mozilla Firefox ESR 38.4
- Google Chrome 46
- Microsoft Internet Explorer (IE) 9、10、11
- Apple Safari 7

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco Prime Collaboration Deployment を実行するサーバを参照し、管理者権限でログインします。



(注) 6 人以上のユーザが Cisco Prime Collaboration Deployment Administration GUI に同時にログインしようとする、パフォーマンスに影響する可能性があります。同時にログオンできるユーザと管理者の数を制限してください。



(注) Cisco Prime Collaboration Deployment Administration はブラウザ内のボタンをサポートしません。設定作業を行うときは、[Back (戻る)] ボタンなどのブラウザ ボタンを使用しないでください。

IP アドレス要件

サーバが確実に固定 IP アドレスを取得するようにするため、静的 IP アドレスを使用するように Cisco Prime Collaboration Deployment を設定する必要があります。

仮想化ソフトウェアのライセンスタイプ

Cisco Prime Collaboration Deployment が稼働する追加の ESXi 物理サーバの他に、Cisco Prime Collaboration Deployment 仮想マシンがホストされている ESXi の物理サーバに対しては、VMware vSphere ESXi ライセンスが必要です。これには、Cisco Prime Collaboration Deployment が移行、インストール、アップグレード、または再起動される仮想マシンも含まれます。

Cisco Prime Collaboration Deployment には、VMware vSphere ESXi の一部のライセンスタイプとの互換性がありません。これは、VMware vSphere ESXi の一部のライセンスでは、必須の VMware API が有効にならないためです。



- (注) Cisco Business Edition 6000 サーバと Cisco Business Edition 7000 サーバには Cisco UC Virtualization Hypervisor がプリインストールされています。これらのサーバでアプリケーション VM とともに Cisco Prime Collaboration Deployment を使用する予定の場合は、高い仮想ソフトウェア機能レベルを代わりに使用する必要があります。

以下のものが Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性があります。

- Cisco UC Virtualization Foundation 6x (vSphere Client では、「Foundation Edition」と表示)
- Cisco UC Virtualization Hypervisor Plus 6x
- Cisco Collaboration Virtualization Standard 6x
- VMware vSphere Standard Edition 6x
- VMware vSphere Enterprise Plus Edition 6x (「Enterprise Edition」はありません)
- 評価モードのライセンス

(たとえば、ラボ導入の場合、実稼働では使用されません)

- Cisco Business Edition Embedded Virtualization Basic 7x
- Cisco Business Edition Embedded Virtualization Basic Plus 7x
- Cisco Business Edition Embedded Virtualization Enhanced 7x

以下のものは Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性がありません。

- Cisco UC Virtualization Hypervisor (vSphere Client では「Hypervisor Edition」と表示されません)
- VMware vSphere Hypervisor Edition

インストールに関する FAQ 情報

この項は、インストールを開始する前によく確認してください。

インストールにはどのくらい時間がかかりますか。

インストール前後のタスクを除く、Cisco Prime Collaboration Deployment インストールの全体的なプロセスは、約 30 分かかります。

どのユーザ名およびパスワードを設定する必要がありますか。



-
- (注) システムはパスワードの強固さをチェックします。強固なパスワードの作成に関するガイドラインについては、以下の「「強固なパスワードとはどのようなパスワードですか」」を参照してください。
-

インストール中に指定しなければならないユーザ名およびパスワードは、次のとおりです。

- 管理者アカウント ユーザ名およびパスワード
- セキュリティパスワード

管理者アカウント ユーザ名およびパスワードは、以下にログインする際に使用します。

- Cisco Prime Collaboration Deployment GUI インターフェイス
- コマンドライン インターフェイス

管理者アカウントのユーザ名とパスワードを選択する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 管理者アカウントのユーザ名：先頭の文字は英字である必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。
- 管理者アカウントのパスワード：6 文字以上の長さで、英数字、スペース、コロン(:)を含めることができます。ハイフン(-)、二重引用符(")、カンマ(,)、スラッシュ(/)、波カッコ({})、角カッコ([])、チルダ(~)、ドル(\$)、等号(=)、プラス記号(+)、パーセント記号(%)、アンパサンド(&)、アンダースコア(_)、感嘆符(!)、アットマーク(@)、ハッシュ(#)、アスタリスク(*)、キャレット(^)、カッコ()、縦棒(|)、full stop(.)。

パスワードにセミコロン(;)、山カッコ(<>)、一重引用符(')、疑問符(?)を含めることはできません。

コマンドライン インターフェイスを使用して、管理者アカウントパスワードを変更したり、新しい管理者アカウントを追加したりすることができます。詳細については、*Cisco Prime Collaboration Deployment* のコマンドライン インターフェイスの項を参照してください。

セキュリティパスワードは、長さ6文字以上にしてください。パスワードには英数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます。



-
- (注) FIPS モード、コモンクライテリア、または拡張セキュリティモードを有効にする前に、セキュリティパスワードが最小 14 文字以下であることを確認します。
-

強固なパスワードとはどのようなパスワードですか。

インストールウィザードは、入力されたパスワードの強固さをチェックします。強固なパスワードを作成するには、次の推奨事項に従ってください。

- 大文字と小文字を併用します。
- 文字と数字を併用します。
- ハイフンと下線を含めます。
- 長いパスワードほど強固であり、短いパスワードよりも安全であることに留意してください。

以下のようなパスワードは避けてください。

- 固有名詞や辞書に載っている単語など、意味を持つ単語は使用しないでください。また、これらと数字を組み合わせて使用することも避けてください。
- 意味を持つ単語を逆向きに読んだ語句も使用しないでください。
- aaabbb、qwerty、zyxwvuts、123321 など、一定のパターンの語句や数字は使用しないでください。
- 他の言語において意味を持つ単語は使用しないでください。
- 誕生日、郵便番号、子供やペットの名前など、個人情報を使用しないでください。



-
- (注) ESXi パスワードが32文字未満であること、クラスタパスワード(インストール/検出/移行)が16文字未満であり、許可された特殊文字を説明する前のセクションに準拠していることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager に許可されるパスワード形式の制限の詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> から

『Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager AND IM And Presence Service』を参照してください。

仮想マシンに他のソフトウェアをインストールできますか。

承認されていないサードパーティー製ソフトウェアアプリケーションはインストールまたは使用できません。システムがアップロードおよび処理できるのは、シスコが承認したソフトウェアのみです。

CLIを使用して、承認されているソフトウェアのインストールとアップグレードを行うことができます。

インストール前の作業

次の表に、Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするために実行する必要があるインストール前のタスクを示します。

表 2: インストール前の作業

	タスク
ステップ 1	この章をすべて読み、インストール手順を理解します。
ステップ 2	Cisco Prime Collaboration Deployment のインストールを予定しているサーバが DNS で正しく設定されていることを確認します。
ステップ 3	インストールするサーバの設定内容を記録します。

ネットワーク トラフィックの許可

ここでは、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバをサポートするために設定する必要がある最小限のポートについて説明します。次の表は、企業ファイアウォール上で設定する必要があるポートの概要を示します。この表に示されるポート設定は、デフォルトの設定に基づいています。デフォルト設定を変更した場合、これらの設定を更新する必要があります。

ネットワーク上で他のサーバまたはポートが必要な場合、そのトラフィックを考慮する必要があります。



(注) Cisco Prime Collaboration 導入の移行では、宛先仮想マシンの ESXi ホストでネットワークファイルシステム (NFS) のマウントを使用する必要があります。追加のプロトコルまたはポートが必要になる場合があります。詳細については、<http://www.VMware.com> で ESXi のドキュメントを参照してください。

表 3: 企業ファイアウォールの設定

方向	送信元	送信先	プロトコル	ポート	説明
インバウンド	Cisco Prime Collaboration Deployment	FTP サーバの IP アドレス	TCP	21	ライセンスおよびソフトウェアのアップロード、アップグレード、および CLI アクセスのための Cisco Prime Collaboration Deployment サーバへの FTP アクセス
インバウンド	Cisco Prime Collaboration Deployment	SFTP サーバの IP アドレス	TCP	22	ライセンスおよびソフトウェアのアップロード、アップグレード、および CLI アクセスのための Cisco Prime Collaboration Deployment サーバへの SFTP アクセス
インバウンド	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTP	80	非セキュアな GUI および Web API (ログイン ページなど) への HTTP アクセス
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	111	Network File System

方向	送信元	送信先	プロトコル	ポート	説明
インバウンド	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	443	セキュアな GUI および Web API への HTTPS アクセス
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	662	Network File System
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	892	Network File System
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	2049	Network File System
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	6060	アプリケーションサーバからの非同期 SOAP メッセージ
インバウンド	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	8443	HTTP 代替
インバウンド	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTP	8080	HTTP 代替
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	UDP	32769	Network File System

方向	送信元	送信先	プロトコル	ポート	説明
インバウンド	UCアプリケーションサーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP	32803	Network File System

表 4: タスクのためのコマンドラインインターフェイス (CLI)/Cisco Platform 管理 Web サービス (PAWS) の使用

機能/要件	クラスタの検出	移行	COP ファイルのインストールのアップグレード	再起動	バージョン切り替え	新規インストールの編集/展開	アドレス再設定作業
VMware Api	非対応	はい	非対応	非対応	非対応	はい	非対応
仮想マシンの宛先 ESXi ホストでの NFS マウント	非対応	はい (ISO インストールイメージ)	非対応	非対応	非対応	はい (ISO インストールイメージ)	非対応
ローカルまたはリモート SFTP (注) リモート SFTP では移行が行われません。	非対応	はい (データのエクспорт/インポートのみ)	はい (ISO アップグレードイメージ)	非対応	非対応	非対応	非対応
PAWS	UCM 6.1.5 を調整するときに UCM 10.0 + No を調整する場合は Yes (代わりに CLI を使用)。		はい	はい	はい	いいえ	はい
SSH 経由の CLI	はい	はい	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応

インストール用の情報の収集

Cisco Prime Collaboration Deployment に関する情報を記録するには、次の表を使用してください。すべての情報を入手する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連する情報のみ収集してください。



(注) フィールドの一部は省略可能であるため、設定に適用されない場合があります。



注意 フィールドの一部はインストールが完了してしまうと、ソフトウェアを再インストールしない限り変更できなくなります。そのため、適切な値を入力するように注意してください。表の一番右の列に、インストール後にフィールドを変更できるかどうかが表示されています。変更可能な場合は、該当する CLI コマンドを記載しています。

表 5: サーバの設定データ

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
管理者 ID	このフィールドは、Cisco Prime Collaboration Deployment 上の CLI へのシェルアクセスをセキュアにするために使用する管理者アカウント ユーザ ID を指定します。	不可。インストール後、エントリは変更できません。 (注) インストール後、管理者アカウントを追加作成することはできますが、元の管理者アカウント ユーザ ID は変更できません。
Administrator Password	このフィールドは、CLI へのセキュアなシェルアクセスのために使用する管理者アカウントのパスワードを指定します。 このパスワードは、adminsftp ユーザが使用することもできます。adminsftp ユーザは、ローカルバックアップファイルへのアクセスやサーバライセンスのアップロードなどに使用します。 パスワードは最低 6 文字とし、英数字、ハイフン、アンダースコアを使用するようにします。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set password user admin
国 (Country)	一覧から、インストールを行う該当する国を選択します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set web-security

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
DHCP	[DHCP] オプションには、[いいえ (No)] を選択する必要があります。[いいえ (No)] を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイを入力する必要があります。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
DNS 有効	DNS サーバがホスト名を IP アドレスへ、または IP アドレスをホスト名へ解決します。 Cisco Prime Collaboration Deployment では DNS サーバを使用する必要があります。[はい (Yes)] を選択して、DNS を有効にします。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
DNS プライマリ	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ドット付き 10 進表記 (ddd.ddd.ddd.ddd) で入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network dns DNS とネットワーク情報を表示するには、次の CLI コマンドを実行します。 show network eth0 detail
DNS セカンダリ (省略可能)	オプションのセカンダリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network dns
ゲートウェイアドレス	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドを 255.255.255.255 に設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、サブネット上のデバイスのみとの通信に限定されることがあります。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network gateway

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
ホスト名	<p>サーバに対する一意のホスト名を入力します。</p> <p>ホスト名の長さは最大 64 文字です。英数字とハイフン (-) を使用できます。ただし、最初の文字をハイフンにすることはできません。</p> <p>重要 タスクの実行中には、ホスト名を変更しないでください。</p>	

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
		<p>可。インストール後、エントリを変更できます。</p> <p>set network hostname</p> <p>(注) ホスト名を変更したら、Prime Collaboration Deployment に追加されたすべての ESXi ホストに Prime Collaboration Deployment NFS を必ず再マウントしてください。これは、次の方法で実行できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Prime Collaboration Deployment に追加された各 ESXi ホストにログインします。 2. Prime Collaboration Deployment NFS ストレージを右クリックして削除します。 3. Cisco Prime Collaboration Deployment アプリケーションから、ナビゲーションの開閉ボタンをクリックし、[インベントリ (Inventor)]> [ESXi ホスト (ESXi Hosts)] を選択します。 4. 各 ESXi ホストで [編集] をクリックし、[OK] をクリックします。 <p>これで、更新されたホ</p>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
		スト名を使用して、それぞれの ESXi ホストに NFS として Prime Collaboration Deployment が再マウントされます。
IP Address	サーバの IP アドレスを入力します。	可。インストール後、エントリを変更できます。 set network ip eth0
IP マスク	このマシンの IP サブネットマスクを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 set network ip eth0
[所在地 (Location)]	サーバの場所を入力します。 組織内の識別できる任意の場所を入力できます。たとえば、サーバが設置されている都道府県や市区町村などを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 set web-security
MTU サイズ	MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。 使用するネットワークの MTU サイズをバイト単位で入力します。ネットワークの MTU 設定が不明な場合は、デフォルト値を使用します。 デフォルト値は 1500 バイトです。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network mtu

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
NTP サーバ (NTP Server)	<p>同期する 1 台または複数のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>最大 5 台の NTP サーバを入力できます。</p> <p>注意 発生する可能性のある互換性の問題、精度の問題、およびネットワーク ジッターの問題を回避するには、プライマリ ノードに指定する外部 NTP サーバが NTP v4 (バージョン 4) にします。IPv6 アドレッシングを使用している場合は、外部 NTP サーバが NTP v4 である必要があります。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>utils ntp server</p>
組織	<p>組織の名前を入力します。</p> <p>ヒント このフィールドを使用して、複数の組織ユニットを入力できます。複数の組織ユニット名を入力するには、エントリをカンマで区切ります。カンマを含むエントリは、エントリ内のカンマの前に円記号を入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set web-security</p>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
セキュリティ パスワード	<p>セキュリティパスワードを入力します。</p> <p>このパスワードは、6文字以上の英数字にする必要があります。パスワードにはハイフンおよび下線を使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p>(注) このパスワードを保存してください。</p> <p>(注) FIPS モード、コモンクライテリア、または拡張セキュリティモードを有効にする前に、セキュリティパスワードが最小 14 文字以下であることを確認します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set password user security</p>
状態 (State)	<p>サーバが配置されている州/都道府県を入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set web-security</p>
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>ローカルタイムゾーンおよびグリニッジ標準時 (GMT) との時差を指定します。</p> <p>マシンの場所に最も近いタイムゾーンを選択します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set timezone</p> <p>現在のタイムゾーン設定を表示するには、次の CLI コマンドを実行します。</p> <p>show timezone config</p>

インストールの開始

1 つのインストールプログラムを実行することでオペレーティングシステムと Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールします。

インストールウィザードの操作方法については、次の表を参照してください。

表 6: インストール ウィザードの操作

操作内容	使用するキー
次のフィールドへ移動する	Tab
前のフィールドへ移動する	Alt+Tab
オプションを選択する	Space バーまたは Enter
一覧を上下へスクロールする	上下の矢印キー
前のウィンドウへ移動する	Space バーまたは Enter キーを押し、[戻る (Back)] を選択 (使用可能な場合)
ウィンドウに関するヘルプ情報を参照する	Space バーまたは Enter キーを押し、[ヘルプ (Help)] を選択 (使用可能な場合)

Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール

PCD_VAPP.OVA ファイルの抽出

新規購入の場合、または My Cisco Entitlements (MCE) からアクセスする対象アップグレードの場合、Cisco Prime Collaboration Deployment には Unified Communications Manager が付属しています。

PUT で物理的な媒体の配送を指定した場合は、ISO ファイルが含まれている DVD を受け取ります。このファイルを実行して OVA ファイルを取得します。この OVA ファイルでは、仮想マシン内部に Cisco Prime Collaboration Deployment がプリインストールされています。

PUT で eDelivery を指定した場合は、メディアおよびライセンス リンクが記載されている電子メールに、Cisco Prime Collaboration Deployment のダウンロード リンクが記載されています。このリンクは、仮想マシン内部に Cisco Prime Collaboration Deployment がプリインストールされている OVA ファイルを指し示します。

手順

-
- ステップ 1** pcd_vApp_UCOS_10.xxxxx.iso ファイルから PCD_VAPP.OVA を抽出します。
- 新しい PCD_VAPP.OVA ファイルが作成されます。ファイルサイズを確認します。ISO および OVA ファイルのサイズは異なります。
- ステップ 2** Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするために vCenter に PCD_VAPP.OVA ファイルを展開します。

vSphere クライアントを使用している場合、このファイルの名前が PCD_VAPP.OVA であることがあります。VMware vSphere Web クライアントを使用してファイルを導入する場合、ファイルを導入する前にその名前を PCD_VAPP.ova（小文字）に変更する必要があります。

仮想マシンのインストール

始める前に

- OVA イメージをダウンロードします。



(注) 工場出荷時にプリロードされたシスココラボレーションシステムリリース11.5以降を搭載した Cisco Business Edition 6000 または Cisco Business Edition 7000 アプライアンスを使用している場合は、OVA イメージをダウンロードする必要はありません。Cisco Prime Collaboration Deployment OVA は、アプライアンスのデータストアで使用できます。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/business-edition-6000/index.html> または <http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/business-edition-7000/index.html> を参照してください。

- 「インストール前のタスク」の項を参照します。
- 使用しているインストールタイプに応じて、ローカルドライブに OVA のコピーを配置します。

インストールタイプ	ファイル名	ESXi Host のソフトウェアバージョンで使用
OVA	PCD_VAPP.OVA または PCD_VAPP.ova (注) OVA ファイルの名前は、ファイルの展開に vSphere Client または VMware vSphere Web クライアントを使用しているかどうかによって異なります。詳細については、 PCD_VAPP.OVA ファイルの抽出 (17 ページ) を参照してください。	6.5 以降

- Cisco Prime Collaboration Deployment の仮想マシンの作成および必須ポートグループのマッピングのために、以下の情報を決定します。
 - インベントリ フォルダ内で固有で、80 文字以下の新しい Cisco Prime Collaboration Deployment の名前。
 - Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするインベントリ フォルダがあるホストの名前。
 - VM ファイルを保存するデータストアの名前。
 - VM に使用されるネットワーク ポート グループの名前。



(注) Cisco Prime Collaboration の導入では、VXLAN を介した仮想マシンの実装はサポートされていません。

手順

- ステップ 1** vCenter にログインします。
- ステップ 2** [vSphere クライアント (vSphere Client)] で、[ファイル (File)] > [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] を選択します。
- ステップ 3** OVA ファイルの場所を指定し、[次へ (Next)] をクリックします。
[OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ウィンドウが開き、ファイルサイズや VM ディスク サイズなどの製品情報が表示されます。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** VM の名前を入力し、OVA を導入する場所を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** OVA のインストール先のデータセンターまたはクラスタを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** VM ストレージプロファイルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** ディスク フォーマットを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9** 必要に応じて、OVA が導入に使用するネットワークを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10** 選択したオプションを確認し、変更が必要ない場合は、[終了 (Finish)] をクリックして OVA のインストールを開始します。

インストールが完了すると、新しくインストールされた仮想マシンが vCenter 内の選択した場所に表示されます。

仮想マシンでの Cisco Prime Collaboration Deployment の設定

Cisco Prime Collaboration Deployment は OVA インストールの一部としてインストールされますが、Cisco Prime Collaboration Deployment を設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [vCenter] ウィンドウで、新しくインストールされた仮想マシン コンソールを開きます。
- ステップ 2** 仮想マシンの電源をオンにします。
インストールが自動的に開始されます。
- ステップ 3** 既存の設定情報があるかどうかの確認を求められたら、[続行 (Continue)] をクリックして続行します。
[プラットフォーム インストール ウィザード (Platform Installation Wizard)] 画面が表示されます。
- ステップ 4** [Proceed (続行)] をクリックして、ウィザードを続行します。
- ステップ 5** [基本インストール (Basic Install)] 画面で、[継続 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 6** [タイムゾーン設定 (Timezone Configuration)] 画面で、タイムゾーンを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 7** [自動ネゴシエーション設定 (Auto Negotiation Configuration)] 画面で、[継続 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 8** OS デフォルトの MTU サイズを変更するかどうかを尋ねられたら、[No (いいえ)] をクリックして続行します。
- ステップ 9** ネットワーク設定では、ノードにスタティックネットワーク IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。スタティック IP アドレスの使用が推奨されます。DHCP を使用する場合は、スタティック DHCP を使用してください。
- ネットワーク内に設定されている DHCP サーバがある場合に DHCP を使用するときは、[はい (Yes)] をクリックします。ネットワークが再起動し、[管理者ログイン設定 (Administrator Login Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ノードに静的 IP アドレスを設定する場合は、[いいえ (No)] をクリックします。[静的ネットワーク設定 (Static Network Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 10** DHCP を使用しないことを選択した場合は、静的ネットワーク設定の値を入力して [OK] をクリックします。
[DNS クライアント設定 (DNS Client Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 11** DNS を有効にするには [はい (Yes)] をクリックしてから、DNS クライアントの情報を入力して [OK] をクリックします。
ネットワークが新しい設定情報を使用して再起動し、[管理者ログイン設定 (Administrator Login Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。

(注) 管理者ユーザ名は、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。Cisco Unified Communications Operating System Administration、コマンドライン インターフェイス、およびディザスタリカバリ システムにログインするには、管理者ユーザ名が必要です。

ステップ 13 証明書情報を入力します。

- 組織
- 単位
- 所在地
- 状態
- 国

ステップ 14 [OK] をクリックして続行します。

ステップ 15 Network Time Protocol (NTP) クライアント設定情報を入力します。この設定をテストするには、[Test (テスト)] をクリックします。

ステップ 16 NTP を設定するには、[Proceed (続行)] をクリックします。

ステップ 17 画面の指示に従って、セキュリティパスワードを入力します。

(注) FIPS モード、共通基準、または拡張セキュリティモードを有効にする前に、セキュリティパスワードに 14 文字以上があることを確認してください。

ステップ 18 プラットフォームの設定が完了したら、[OK] をクリックしてインストールを完了します。インストールが完了するまで数分かかります。

インストール後のタスク

手順

ステップ 1 バックアップを設定します。Cisco Prime Collaboration Deployment を頻繁にバックアップするようにしてください。バックアップスケジュールの設定方法の詳細については、[を CLI コマンド およびディザスタリカバリ システム参照](#)してください。

ステップ 2 有効な Network Time Protocol (NTP) があることを確認します。この確認を行うには、Cisco Prime Collaboration Deployment CLI にログインし、**utils ntp status** コマンドを実行します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。